

いざという時、迷わないために ~ AED の基礎知識~

久木田薬品工業株式会社 常務取締役 **久木田 和敬**

皆さまはAEDを使ったことはございますでしょうか?私は幸いにもまだそのような場面に遭遇しておりませんが、現在の日本では、毎日約200人の方が心臓突然死で命を失っています。日本では2004年からAEDが導入され、現在は人口密度に対する設置数が世界有数となっています。しかし、使用できる方が圧倒的に少ないのが現状です。もし外出先で大切なご家族や友人が目の前で倒れた場合でも、AEDがあれば救命率が大幅に向上し、予後にも大きな影響を与えます。そこで今回は、この場をお借りして、AEDの重要性やその普及に関する現状についてご紹介させていただきたいと思います。

AEDを普及させる意義

1. AED とは何か?

AED(自動体外式除細動器)は、心停止を起こした人の心臓に電気ショックを与えて、心臓の正常なリズムを取り戻すための医療機器です。特に、心室細動と呼ばれる不整脈の一種では、心臓が正しく血液を送り出せなくなり、数分以内に治療を行わなければ命が危険にさらされます。このような緊急事態では、医師や救急隊員が到着するまでの「その場に居合わせた人」の対応が命を救う鍵となりま

す。

AED は医療の知識がない一般の人でも簡単に使えるよう設計されており、音声ガイダンスに従うだけで適切な処置ができる仕組みです。このような理由から、学校、駅、ショッピングモール、スポーツ施設、公共の建物など、さまざまな場所に AED が設置されています。

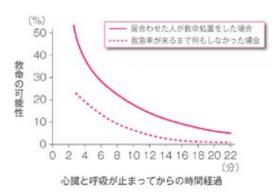


2. AED の普及が必要な理由

(1) 命を救う「ゴールデンタイム |

心停止が発生した後、心臓に電気ショックを与えるまでの時間が短ければ短いほど、命が助かる確率が大きく上がります。救急車が現場に到着するまでの時間は平均して約10.3

分¹⁾かかると言われていますが、心停止後の 1分ごとに生存率は約7%から10%低下する とされています。そのため、現場に居合わせ た人がすぐにAEDを使い始めることができ れば、助かる可能性が飛躍的に高まります。



救命の可能性と時間経過²⁾

(2) 誰でも使えるからこそ必要

AEDは、特別な訓練を受けていなくても使える医療機器です。音声ガイダンスに従うだけで、「パッドをどこに貼るか」「電気ショックをいつ与えるか」といった重要な判断を支援してくれます。さらに、AEDは心電図を自動で解析し、必要な場合にのみショックが行われる仕組みになっているため、誤って使ってしまったとしても危険な事態が発生することはありません。

(3) 災害時やスポーツ中の事故にも対応できる スポーツの試合中に突然倒れるアスリート のニュースを見たことがある人もいるでしょ う。運動中は心拍数が上がり、心臓に負荷が かかるため、心停止が発生するリスクが高ま ります。特に若年層でも、心臓の異常が原因 で突然倒れる「心臓震盪(しんぞうしんとう)」 が発生することがあります。これに対しても、 AED がすぐに使用できれば救命率が大幅に 向上します。

また、大地震や大規模な災害の発生時、救 急車がすぐに駆けつけられない状況でも、 AED があればその場で救命処置が可能にな ります。AEDが普及していれば、災害時の 救命にも大きく貢献するのです。

3. AED を普及させる意義

(1) 命を救える可能性を広げる

AEDが普及していれば、命を救えるチャンスが広がります。心停止が起きたとき、すぐに AED を使用するかどうかで生存率が大きく変わります。たとえば、日本国内では、救急車が到着する前に AED が使われた場合、救命率は 2 倍以上に高まるというデータもあります。 AED が設置されているだけでは不十分で、「AED の設置場所を知っていること」や「使い方に慣れていること」も重要です。(下図のような携帯アプリで設置場所の確認ができます)



(2) 誰でもヒーローになれる社会の実現

AEDが普及することは、「その場に居合わせた人」がヒーローになれる社会を作ることを意味します。特別な資格がなくても、機械の指示に従えば救命処置が行えるため、誰もが「もしもの時」に貢献できるのです。大人だけでなく、高校生や中学生でも AED を使えるようになれば、地域の安全が大きく向上します。

(3) 社会全体の安全意識を高める

AED の普及は、私たち一人ひとりが「命 の大切さ」について考えるきっかけにもなり ます。AEDを設置するだけでなく、学校の 授業や地域の防災訓練で「使い方を学ぶ場」 が増えることで、社会全体の安全意識が高ま ります。人命救助の意識が高い社会は、より 多くの命を守ることができる「優しい社会」 とも言えます。

4. どのように普及させるべきか?

(1) 設置場所を増やす

AEDは、駅や学校、商業施設、公共施設 など、日常生活の中で多くの人が行き交う場 所に設置する必要があります。さらに、地域 の小規模な商店やカフェなどにも設置される ようになれば、より多くの人が AED にアク セスできるようになります。

(2) 使い方を学ぶ機会を増やす

学校の授業や地域の防災訓練に AED の使 用方法を取り入れることが大切です。これに より、誰でも AED の使い方を知り、いざと いうときに「どうすればいいか分からない」 とならずに済みます。また、自治体や消防署 が実施する AED 講習会に参加することも効 果的です。



(3) 誰でも使えることを広める 「AED は医療のプロしか使えないのではな

いか」と思う人が多いのも事実です。しか し、AEDは誰でも使える機械であり、失敗 しても責任を問われない法律(民法 698 条 「緊 急事務管理|)が整備されているため、誰でも 安心して使うことができます。これを学校や SNS、ポスターなどで周知することで、AED の使用がさらに広がるでしょう。

5. まとめ

AED を普及させる意義は、「一人でも多く の命を救うこと」にあります。心停止はいつ、 どこで起きるか分かりません。もしかしたら、 家族や友達、目の前にいる誰かが突然倒れる かもしれません。そんなとき、AED が近く にあり、すぐに使える状況が整っていれば、 命が助かる可能性が高まります。さらに、誰 でも使える仕組みが整っているからこそ、す べての人が「助ける側」に回れる社会が実現 します。AEDの普及は、より多くの命を守 り、思いやりのある社会を作る一歩になるの です。



さて、最後に当社について簡単にご紹介さ せていただきます。

弊社は、創業者の久木田盛次が鹿児島から 上京し、大正 10年 (1921年) に日本橋本町に て薬品卸として創業いたしました。当初は工業薬品を主に取り扱っておりましたが、現在では試薬をはじめ、医薬品原料、化粧品原料、食品原料など、幅広い分野の商品を取り扱っております。1986年には本社ビルが竣工し、2021年にはおかげさまで創業100周年を迎えることができました。現在は、ヘルスケア領域の事業を展開しており、地域社会への貢献を目的として、社員に対して積極的にAED講座の受講を推奨しております。

これからも、皆さまのお役に立てる企業を 目指し、さらなる精進を重ねてまいる所存で ございます。

参考文献

- 1)総務省消防庁:令和5年版救急・救助 の現況
- 2) 救急蘇生法の指針 2015